

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	進藤 聡彦 (しんどう としひこ)	所属	山梨大学
研究集会等名称	自己調整学習研究会 (SRL 研究会)		
成果概要	<p>1) 参加人数</p> <p>会員 22 名 (うち認定心理士 15 名) 非会員 3 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>①2 回の研究集会の実施 ■2011 年 10 月 29 日 (大正大学) 10 時半から 17 時 Handbook of Self-Regulation of Learning and Performance 塚野 (1 章), 佐藤 (5 章), 犬塚 (11 章), 伊藤 (18 章), 篠ヶ谷 (6 章), 植阪 (8 章) ■2012 年 3 月 21 日 (東京大学) 10 時半から 17 時 Handbook of Self-Regulation of Learning and Performance 塚野 (2 章), 寺田 (4 章), 深谷 (16 章), 篠ヶ谷 (19 章) ★どちらの研究集会においても, 発表担当者が章ごとの内容を紹介するとともに, 自分の研究や国内での研究動向と照らし合わせて考察した。また, それを踏まえて全体で討論を行った。</p> <p>②日本教育心理学会第 53 回総会 (北海道立道民活動センター かでる 2・7) でのシンポジウムの実施: 2011 年 7 月 24 日 ■タイトル: 高等教育における自己調整学習のあり方 ■登壇者: 犬塚美輪, 瀬尾美紀子, 塚野州一, 秋場大輔, 藤田哲也, 沖林洋平, 森敏昭 ■概要: ①大学で自ら学ぶための知識やスキルを, 自己調整学習の観点から, どのように育成するか。②高等教育における読み書き能力の獲得, ③自己調整学習と社会文化的背景との関係, の 3 報告の後, 指定討論者から意見が述べられた。それらに対して参加者から質問, 意見が出され, これからの高等教育における自己調整学習のあり方をめぐって活発な討論が行われた。</p> <p>③研究会が中心となって本を作成 研究会のメンバーが中心となって, 研究成果を踏まえた本を執筆。 「自己調整学習—理論と実践の新たな展開へ—」自己調整学習研究会編 北大路書房 2012 年 4 月中旬に出版予定の運びとなった。</p> <p>④来年度のシンポジウムの企画 今年度の 2 回の研究集会と, 研究会が中心となって本を作成する過程で得られた成果を発信するために, 2012 年度日本教育心理学会にてシンポジウムを行うことを決定した。</p>		